

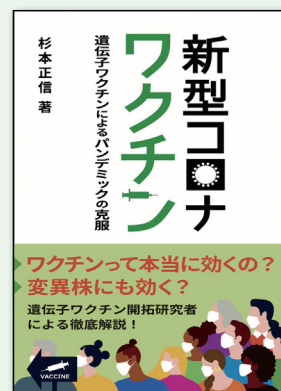
新型コロナウイルスをわかりやすく解説

# 新型コロナウイルス

— 遺伝子ワクチンによるパンデミックの克服 —

杉本正信 著

B6判  
144ページ  
定価：1,540円  
東京化学同人



新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の流行は1年半以上にわたり世界的に続いており、さまざまな対策をしながらの不自由な生活も長引いている。そんななか、2020年末ごろから登場した新型コロナウイルスワクチン（以下新型コロナウイルスワクチン）は、この流行を終息へと導くことのできる決定打となりうるツールとして大きく期待され、世界中で接種が進んでいる。本書はそんな新型コロナウイルスワクチンについて、わかりやすく、シンプルに、そして踏み込みすぎずに概説している。

今、世界で接種の進んでいる新型コロナウイルスワクチンは、おもにメッセンジャーRNAワクチンと、ウイルスベクターワクチンという、新しいテクノロジーによるワクチンである。これらの新技術を用いたワクチンが、世界中で多くの人に対して利用されるのはこのコロナパンデミックが初である。新しい技術が用いられていることは当然、改善されたことや利点も多いわけであるが、新しいことに伴う懸念や不安といったものも当然生じるものである。そのような不安などに対しては、まずは知ることが重要なとは言ってもない。

本書の著者は、別のウイルスに対するものではあるが、ウイルスベクターワクチンの開発にながく携わってきたウイルス学・ワクチン学のプロである。実際に研究開発に携わった立場から、わかりやすく読みやすく、ウイルスベクターワクチンについての歴史を含む、ワクチン全体の歴史や、開発の実例を本書は紹介し

ながら今回のワクチンについても実際どのようなものであるかを概説する。

本書の章立ては、スペイン風邪などを含む過去のパンデミック、新型コロナウイルスワクチンの全貌、実際のワクチンの効果や副反応、新型コロナウイルスワクチンと免疫、ワクチンをはやく開発できた背景、変異ウイルスとワクチンの関係、治療薬、人畜共通感染症の話題、感染流行をめぐる世界の動きの話、となっている。いずれの話題も新型コロナウイルスワクチンについて知り、理解していくうえで基礎となる大切なものばかりであり、順に読んでいくと、全体がよく理解できる構成となっている。筆致はきわめてあっさりしており、読解困難な要素はなく、また、けっして細かいところにまで踏み込みすぎることなく、新型コロナウイルスワクチンについて俯瞰することができるようになっている。

新型コロナウイルスワクチンについては多くの情報が飛び交っている。公的情報、報道、書籍や雑誌、ネット上で流れる情報など、そのソースも多様であるが、その内容もターゲットも信用度も非常にさまざまにわたっており、個人がどのような情報源からどのような情報を仕入れ、どう判断すればよいのかは非常に困難となっているのが現状である。情報の氾濫については新型コロナウイルスの流行初期から世界保健機関 (WHO) はインフォデミックが生じていると警鐘を鳴らしてきた。ワクチンが登場してからもそれは変わらず、出所が不明であったり真偽の判然としなかったりする情報もあふれかえって

いる状況である。

今回のパンデミックを取束させるために切り札となりうるものであると同時に、まさにそれぞれが当事者として接種を受けることにもなるワクチンについて、どのように情報を仕入れ、どのようなものを読めばよいのかも、難しい問題となっているのが現実であろう。やはり、基本から、正確に、わかりやすく、そして必要なポイントをおさえた情報を入手することがどこまでも重要であると考えられる。

そのような目的において、本書は最初に手に取る一冊としてよいと思われる。ワクチンの歴史、原理、仕組みを含む基礎の基礎を紹介し、ほかの話題にも適宜ふれながら、新型コロナウイルスワクチンについて知っておくべき事項を、読者をまどわせることなく紹介がなされていくのは、読みやすさも相まって、スムーズに全体像を把握するのに役に立つ。情報は日々更新されていくが、まずは把握しておくのが大切なコアとなる情報が中心となって書かれていることもありがたい。

本書を読んで全体を把握し、これを基礎的な知識として新型コロナウイルスワクチンについて、また本書でふれられているそのほかのワクチンに関する事項についてさらに深く学んでいくのはためになると考える。新型コロナウイルスワクチンの入門書としても、多くを知る人についてはレビューをするためとしてもよい一冊であると思う。

(病理専門医、米国立研究機関博士研究員

峰 宗太郎)